

## 阿蘇草原再生協議会 第8回草原環境学習小委員会 議事概要

日時：平成21年6月30日(火) 14:00～17:00

場所：大阿蘇環境センター「未来館」会議室B(RDF会議室)

出席者：委員10名、事務局6名、オブザーバー1名

### 1)平成21年度阿蘇草原再生協議会スケジュールについて

「資料1：平成21年度阿蘇草原再生協議会スケジュール」-事務局より説明

### 2)「阿蘇草原再生に向けた「活動計画・活動結果報告」と「阿蘇草原再生レポート」の作成について」

#### 【活動結果報告】

「資料2：活動結果報告の評価について」-事務局より説明

「資料3：草原環境学習小委員会が評価・助言を分担する「活動結果報告」一覧、個票、全体的な評価(案)」-事務局より説明

活動結果報告の紹介(提出者が出席している場合は提出者自身が説明)

全体的な評価(たたき台)について、事務局より説明

全体的な評価について

(委員長)「活動結果報告」の全体的な評価について、それぞれの事業者からの発表も踏まえ、事務局のたたき台についてご意見をお願いしたい。

- ・ 今後の展開の可能性では、それぞれの活動が継続性が持って事業内容が展開していくことが大事で、将来に繋げていけるように、ということが入っているといい。
- ・ 草原キッズ・プロジェクトについて説明不足であり、地域の子供たちに対する環境学習をやっていく、ということを確認したい。

(委員長)キッズ・プロジェクトは本小委員会の売りなので、目的を明確にしていきたい。

- ・ 当初からの懸案事項である、活動団体がそれぞれ有機的に連携して、無駄なく効果的に活動が進むような仕組みづくりについてどう考えるか。

牧野組合とのやり取りなどは前より増え、各団体等に得意分野をお願いするというつながりも少しづつ出ているが、まだ十分とはいえないと感じる。(委員長)

現場との結びつきが小さくてもあれば各組合も少しは役に立っていると思える。そういう結びつき大事にしていったほうが草原再生の要件に合うだろう。

(委員長)その辺を進めると大きな力になっていくので、今後の展開に盛り込んでほしい。

- ・ 交流の家では体験を通して組合との交流があり、参加者の草原に対する認識も高めた。野草紙プロジェクトでは、子供達が草原の維持に対する認識ができたのではないか。出前授業は、草原を守る大変さなどを子供達が理解し、家の人に伝わる機会になる。

(委員長)野草紙プロジェクトは面白い取り組みである。教えこむのではなく、一つの形を通して、草原を伝えていくというやり方は伝わりやすいのかと思う。

- ・ 卒業証書を作るという課程を通して草原のことを伝えているが、子供達の感想をみると、草原を守ることに理解する内容が見られ、やってよかったと思っている。

(委員長)この小委員会には、いろいろな活動をやっている人が集まっており、得意分野を活かして有機的が繋がりが出来ていくことに意味がある。そういうことがキッズプロジェク

トに反映されていくと一番いいと思う。

- ・ 参加人数の拡大が課題だが、物理的に沢山受け入れられないところもある。地元に出かけることも、組合が立ち上がらなければならない。全体的な評価に、牧野組合との協力を強調したらどうか。

(委員長) 中身を薄くせずに参加人数の増加に対応していくためには、地元牧野との連携が欠かせないということになる。全体評価について、事務局でこれまでの意見を盛り込んで修正した後、委員の皆さんに確認していただくこととする。

奨励賞の選定について

(委員長) 奨励賞の選び方と件数を決めたい。奨励賞に選ばれると何があるのか。

3年後に特別賞ができることになっており、それにノミネートできる。(事務局)

- ・ それぞれの売りをPRしてもらわないと選定しづらい。
- ・ 少しずつ対象が違うので、一つだけ選定するのは難しいのではないか。
- ・ 学習効果が広く伝わったという観点から1件、深く効果が根づいたというので1件、2つの観点から選んだらどうか。
- ・ 分けるとすれば、観光客も含めた阿蘇を訪れる方と、地域外からの参加で実践的な活動、地元と対象を3つに分けられるように思う。
- ・ バイオマスの紙漉きは、手段・ツールとして、ユニークさの面から評価できる。
- ・ 阿蘇草原再生シール生産者の会の取り組みは、野草資源で取り上げているが、対象は大人と子どもで、子供達が草原について勉強する機会にもなっている。
- ・ 広がり、特徴的、感動したという内容から選びたい。
- ・ 草原学習関連の活動は多いので2件で絞り込みが難しければ3件でもいいと思う。

(委員長) 多い方がいいということで3件とし、具体的に選ぶ手法は、投票で各委員に2つ選んでもらい、上位3件を選ぶというやり方としたい。

一同了承 投票

投票結果から、以下の3件を奨励賞として選定

- ・ 野草紙を作ろうプロジェクト - NPO 法人九州バイオマスフォーラム
- ・ 「阿蘇の草原物語 秋編・春編」 国立阿蘇青少年交流の家
- ・ 阿蘇の火山体験学習 - (財)阿蘇火山博物館

#### 【新規活動計画案】

「資料4：新規活動計画案」 - 事務局より説明した後、各活動団体より報告  
大学生主体の草原合宿について

- ・ 「草原合宿」の学生による助成金申請について、早めにわかっていたら協議会会長として一筆入れることもできた。活動計画案を提出する際、そういうことも重要である。
- ・ 「草原合宿」という活動名について、今は農村支援などに学生が参加しているので、いいキャッチが欲しい。

情報発信資料に関連して

- ・ 情報発信について、環境学習について独自のHPがあってもいいのではないか。そこが母体となって、情報の共有を進めることが可能になり、受け入れ牧野や内容について横並び

で情報提供することができる。

- ・ 協議会のHPは見直しについて昨年から進めているが、まだできていない。環境省の草原再生プロジェクトHPにはキッズページがある。(環境省)

キッズページでは、学習関連資料はダウンロードできるが、ツアーの紹介などはしていない。(事務局)

以前、学習関連の頁のトップにイベント情報のコーナーを作っていたが、毎月の情報をこちらから連絡しないと掲載出来ない状況だったので閉めた経緯がある。

- ・ 例えば、事務局が毎月、何かイベントがないかということ登録している人達に流す。それを受けて、とりまとめてHPに載せる。そういうコーディネートをするのが、小委員会の役割であり、定期的に情報を流すことが必要である。

(委員長) 環境省の頁の一角を借りるということは可能か。

協議会の頁があるので、その中に作れば可能だと思う。(環境省)

(委員長) HPの力は大きいので、検討を進めてほしい。

- ・ 情報発信は、一般向けならデザインセンターのHPでカルデラツーリズムとリンクして流すこともできる。10月には、JR九州と組んで平成23年に実施するカルデラツーリズム博覧会の誘客イベントを行う。10月~11月中頃に実施する活動であればパンフレットに組み込める。平成23年には1年間通して行うが、12月位までに協議会として来て欲しい活動をピックアップできればガイドブックへの掲載が可能である。

- ・ 動画サイトには1日1万件、携帯サイトには30万件位のアクセスある。携帯に載せるという手もある。草原のサイトを設けて発信するようにするといい。また、草原だけでやるのではなく、全体の動きとどこかでリンクしておく方がいい。

- ・ 全国草原ネットワークでは、会員が事業について流してくれれば全部載せている。そういうことが必要である。

- ・ ネットワークづくりが必要で、どこから情報発信するかというチャンネルを協議会として、小委員会としてどう持つかということ。環境省に任せておけば済む話ではない。

その辺はそれぞれの得意分野を活かしていければと思う。また、観光利用小委員会との仕切も必要になってくるかと思う。(環境省)

- ・ 一方で受け入れ側の数も増やさなければならない。谷博は商工関連との連携を模索しており、そういうことも考えて行くべきではないか。

谷博の活動は中身が濃いのでリピーターも多いが、逆に大勢になると対応に困る。受け入れ側がいかに中身の濃いプログラムを提供できるか、質の問題もある。(委員長)

(委員長) 5件の活動計画案について、小委員会として承認ということでもいいか。

拍手で承認

### 3) 草原キッズ・プロジェクトについて

「資料5：草原キッズ・プロジェクトについて」 - 阿蘇グリーンストック / 永原氏より説明

(委員長) 昨年度から、5カ年計画でキッズプロジェクトを進めている。最終的に地元の学校で草原学習をカリキュラム化していくことを目標としている。アンケートやヒアリングを進

めているが学校の反応は良い。今年は、交流の家との連携でショートスクールを実施するとともに、来年のモデル校選出も行う。

#### ショートスクールについて

(報告)交流の家の連絡協力促進事業として、10月と2月に1泊2日でショートスクール(「草原物語」の小学生版)を実施する。阿蘇郡市内の小中学校のカリキュラムに広げていくということで、地元小学生、他県の小学生に参加募集をかける。小委員会で具体的なプログラムについてアイデアをいただきたい。夜は、大人は学習プログラムを考える時間、子供たちはそのプログラムを受ける時間として考えている。募集は7月14日から行いたいので協力をお願いしたい。

- ・ 長陽西部小学校が学校が授業とは別に行っている「夢の学校」から、秋・春通して参加したいという返事をいただいた。4～6年生に加え大人も一部参加したいとのこと。

大人も関わることにより、いろいろな立場から話をするができるといい。学校ベースでも一部でもいいし、先生も参加してほしい。

(委員長) 連絡協力促進事業として行われており、小委員会としても有り難い。

- ・ 熊本県の教育委員会が後援に入っているが、阿蘇市教育委員会が入っていると、学校としても宣伝がしやすいと言われている。

県の教育委員会が後援に入っていれば、各教育事務所は問題ないということになるが、重ねてそういう理解であれば、お願いする必要があるだろう。

(事務局) 欠席委員からの質問で、秋編は運動会行事との重なりを確認できるか、学習の内容を具体的に表現できると子供達を引きつけられる、という意見をいただいた。

阿蘇市では、運動会は9月半ばに行われるので影響はないだろう。その他のイベントとのかぶりは早めに広報することでカバーしたい。2月は野焼きがあるのでこの時期しかない。具体的に魅力が伝わるように写真を入れたり是可以する。

#### \* 実施内容について

- ・ 実際に牧野の方々にお願いして牛とふれあう体験もできないことはないと思っている。体験して良かったと思えるものを考えていきたいので、具体的なアイデアを下さい。

糞虫堀りがいい。

牛に名前を書かせるのは時間がかかる。おとなしい牛を連れ出してふれあい体験をすることもあるが、牛と馬を比較させたりするのも子供達の勉強になる。

体験は人数が多い場合、グループを分けないとできない。

- ・ 募集開始までに事業内容を確定したい。だいたいの流れは考えておくので、それについて7月10日くらいまでにアイデアをいただきたい。並行して、各団体に協力してもらいたいことについて個別に調整させていただきたい。

内容案ができたところで事務局からメールで委員へ流してほしい。(委員長)

- ・ 草原キッズ事業と関連して、「小学校長期自然体験指導者養成講習会」を紹介したい。文部科学省の体験活動総合プランの中で、環境学習を支援していただく方々を指導者養成する。参加者がなかなか集まらなくて困っているので、ご協力いただきたい。

#### アンケート結果について

- ・ アンケート結果は公表するのか。これからは広報が非常に重要になる。学校には返すこと

になると思うが、小委員会の成果として積極的に出していくといい。

早めにきちんとまとめて公表するようにしたい。

ヒアリングの状況、反応について

(報告)ヒアリングを進める中で、来年度のモデル校候補として、坂梨小学校と碧水小学校の2校があがっている。碧水小学校では、5年生を対象に草原に限らず阿蘇全体について2学期から1年半計画で行い、6年生の最後には野草紙で卒業証書を作って終わりたいとのことで、7月半ばまでにプログラムの提案を求められている。

ヒアリングはまだ1/3も終わっていないが、既に沢山の課題をいただいている。終わった時点でまとめて、みんなで考えていきたい。

・ 学校ではどれくらいの時間がとれるのか。

こちらから提示すれば、総合学習かその他でやるか判断されるだろう。(委員長)

(委員長)ヒアリングでいい反応が出てきたので積極的に対応していきたい。碧水小学校への対応については、提案までに2回位ワーキングを行い、進めていきたい。次回ワーキングは6日13:00から交流の家で、2回目はその時に決める。

第8回全国草原サミット・シンポジウムが開催のお知らせ(高橋委員より)

以上